



環境活動

当社は化学物質と化学反応を取り扱う企業として、地球と共生できる環境に配慮した製品を製造しています。また、事業活動に伴う環境負荷を軽減するため、環境改善活動に計画的・組織的に取り組んでいます。

省エネ法対策委員会報告

2022年度は、CO₂排出量削減目標の大幅な変更や急激なエネルギー価格の上昇など、省エネ活動が果たすべき役割の重要性が急変した1年でした。この変化に対応するため、「ダイヤモンド・リスpons対策の体制整備」「電力の見える化」「サーモカメラ撮影による無駄な電力の把握」「コンプレッサーエア漏れの改善」「スチームトラップ運用方法の見直し」「省エネ投資」など、さまざま

な視点で省エネ活動に取り組まれました。今後、さらに重要となる省エネ活動は、従業員一人ひとりの意識改革が不可欠です。省エネ法対策委員によるパトロールを実施し、管理標準の順守状況の確認や各事業所での取り組み情報を共有・横展開し活動を推進していきます。

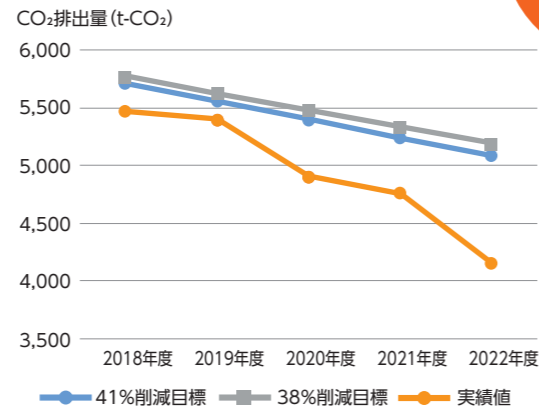
エコビジョンパフォーマンスデータ

CO₂排出量削減 目標値と実績値

目標 2030年度までに2013年度比41%削減。

2022年度よりCO₂排出量削減目標を、従来の2030年度までに2013年度比「7%」削減から「41%」削減へと大幅に変更しました。当社では、地球温暖化対策推進法における産業界38%削減と、自社目標である41%削減の目標値に対し、実績値の監視を行っています。また、この目標を達成するため、省エネ法対策委員会による全社的な省エネ活動を行っています。2022年度は鷺宮事業所と久喜物流センターで電力契約の見直しを行い、電力の非化石エネルギー比率を高めました。2022年度の活動結果は、目標値5,090t-CO₂以下に対し排出実績値4,151t-CO₂となり、目標を達成しました。今後も目標達成を継続するため、多角的に活動していきます。

CO₂排出量推移



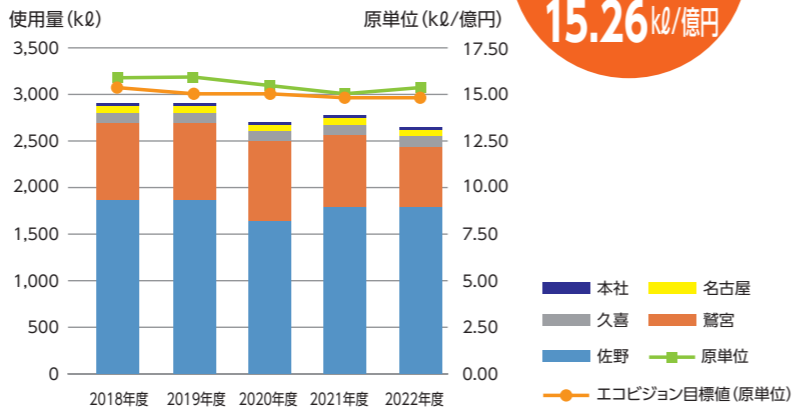
2022年度
CO₂排出量目標値
(38%削減目標)
5,193 t-CO₂
(41%削減目標)
5,090 t-CO₂

エネルギー使用量と原単位の推移

目標 5年間平均エネルギー消費原単位の年1%以上削減を継続。

2022年度のエネルギー消費原単位の目標値は14.84でしたが、結果は15.26で目標未達となりました。2022年度は「電力の見える化」や「省エネ投資」に取り組んでまいりましたが、生産量あたりのエネルギー使用量の上昇が主な原因と考えています。今後、さらに「電力の見える化」を推進、監視を強化し取り組んでいきます。

エネルギー使用量と原単位推移



2022年度
エネルギー使用量
2,630 kWh
原単位
15.26 kWh/100万円

廃棄物排出量と原単位推移

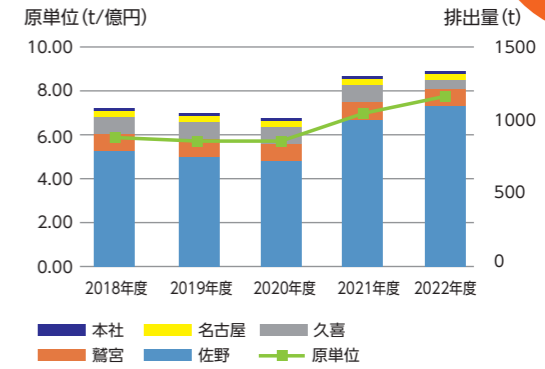
目標 2030年まで、廃棄物排出原単位(売上高)の前年比1%以上低減を継続。

2022年度から、廃棄物排出量に関する目標値を売上高を分母とした原単位として新たに設定しました。

具体的な削減に向けての活動として、「再資源化率(リサイクル率)を向上し最終処分を削減する」「2030年度までにワンウェイプラスチックの排出量を25%削減する」の目標を掲げ、産業廃棄物削減ワーキンググループを立ち上げ活動しました。しかしながら廃棄物排出原単位目標6.88t/億円に対し、実績7.71t/億円で目標未達の結果となりました。

今後とも、さらなる多角的視点から廃棄物の削減に取り組んでいきます。

●廃棄物排出量と原単位の推移



2022年度
廃棄物排出量
1,329t
原単位
7.71t/億円

環境投資報告

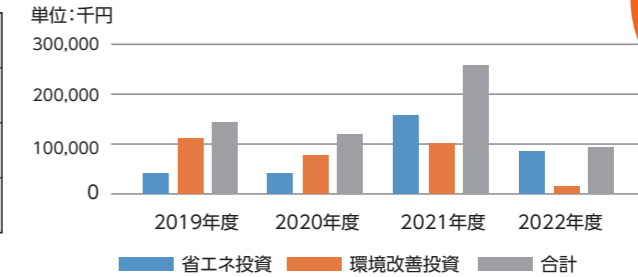
2022年度も継続的に省エネ投資を含む環境投資を行い、LED工事など中長期に渡る投資も含め計画通りに実施しました。2022年度は合計で9,590万円、原油換算で31,531kWh/年の効果が見込まれる投資を行い、CO₂換算した数値は

56t-CO₂になりました。今後もトップランナー制度の対象機器を採用するなど、積極的に環境投資を行っていきます。

●2022年度環境投資

投資項目	投資項目(千円)	該当するSDGs番号
省エネ投資	87,250	7.3, 13.3
環境改善投資	8,650	11.6, 13.3
合計	95,900	

●環境投資推移



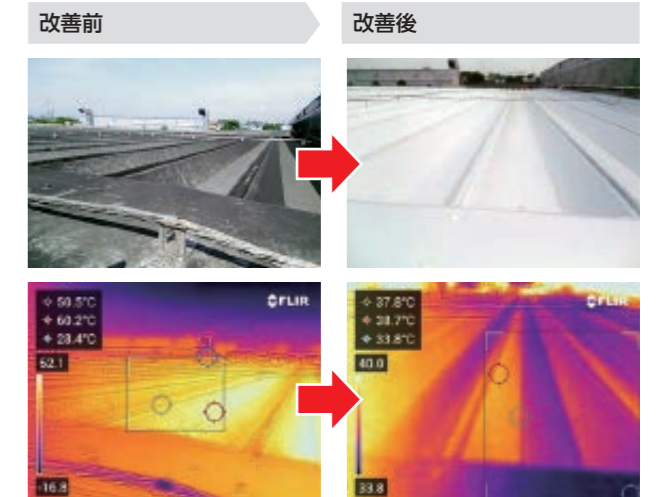
2022年度
省エネ投資額
87,250千円
環境改善投資額
8,650千円

環境改善活動事例:省エネに対する取り組み

●屋根遮熱塗装による省エネ (藤倉化成 久喜物流センター)

夏場の空調機由来の電力使用量の占める割合が高い中、従来の活動は設定温度を順守することやグリーンカーテンの設置などが主な対策でした。抜本的な対策へ移行するためサーモカメラで屋根の温度を測定したところ、場所によっては60℃を超える高温になっていることが判明しました。

対策として遮熱塗装を行った結果、屋根の温度を約20℃下げることができ、真夏の時季も空調機に過剰な負荷をかけることなく運転できるようになりました。



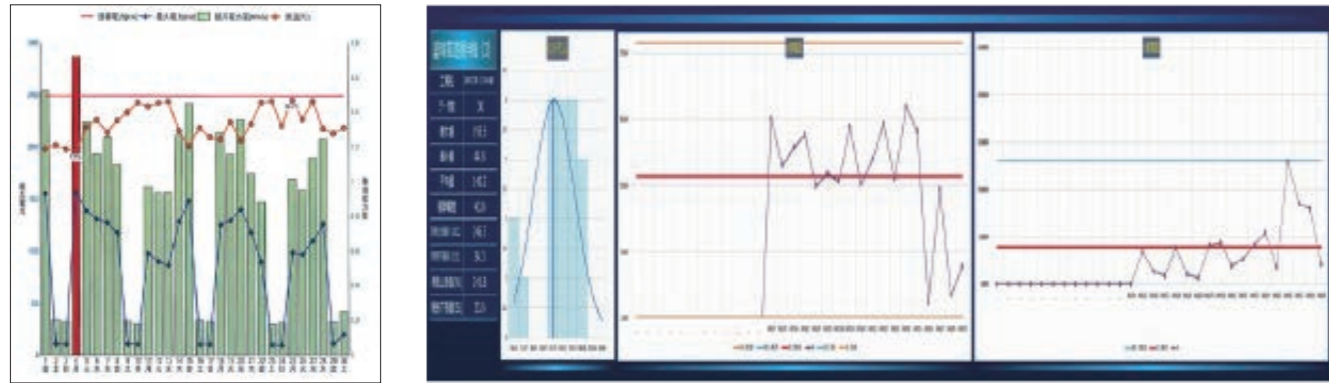


環境活動

電力の「見える化」による省エネ <藤倉化成 佐野事業所>

電力を有効活用するために、電力の「見える化」を推進しています。デマンド監視装置から得られるデータや用役データを管理図化し、生産状況や使用状況に見合った使用量になっているかを監

視しています。異常を検知した場合、機器の止め忘れや生産機器の異常などを確認し、合理的な電力使用に努めています。



環境改善活動事例：環境リスクに対する緊急訓練の実施

化学物質漏えい事故を想定した緊急訓練
<藤倉化成(佛山)塗料有限公司>
<フジクラカセイ タイランド>

多くの化学物質を取り扱うため、リスクアセスメントを実施しています。漏えいを発見した際に迅速に対応できるよう、緊急事態を想定した訓練を定期的に行っています。この訓練を継続することで、社外に漏えいさせない体制を維持しています。



保管製品の漏えいを想定した訓練

タンク下部からの漏えいを想定した訓練

火災を想定した緊急訓練
<フジクラカセイ タイランド>
<フジクラカセイ ベトナム>

火災発生時に重要なことは、初期消火で被害の拡大を防ぐことです。そのため、火災を想定した訓練を定期的に行い、粉末消火器や筒先消火が迅速に取り扱えるように、継続的に訓練を行っています。



小型消火器を使用した初期消火訓練

筒先消火を使用した消火訓練

産業廃棄物処理の確からしさの確立
<フジクラカセイ インドネシア>

使用済み溶剤や期限切れの材料は、認可を受けた化学品廃棄業者を介して廃棄しています。このような認可業者に委託することで、廃棄の追跡が可能となり、廃棄品が適切に処理され、環境を汚染しないことを担保しています。



化学品廃棄物業者による廃棄物の引き取り

化学品廃棄物業者による輸送

VOCs設備の保守点検の実施
<藤倉化成塗料(天津)有限公司>

脱臭装置を使い大気汚染を予防しています。定期的に活性炭を交換するとともに、設備メーカーによる点検を行い、天津市生態環境局および開発区生態環境局の検査を受け、環境影響に配慮した生産活動を行っています。



VOCs設備

天津市生態環境局および開発区生態環境局の検査

可燃性ガス警告システムの導入
<上海藤倉化成塗料有限公司>

製造エリアは、可燃性ガス警告システムで作業環境を監視しています。しかし、停電が発生した場合に警告システムが機能しないという問題がありました。そこで無停電電源装置 (UPS) を導入することにより、電源障害が発生した場合でも安定した電力の供給が可能となり、警告システムを使い続けることができるようになりました。



可燃性ガス警告システム

作業環境の監視

環境改善活動事例：緑化への取り組み

植樹活動
<藤倉化成塗料(天津)有限公司>
<フジクラカセイコーティング・インドア>

海外拠点では、省エネ活動などによるエネルギー使用量削減だけでなく、植樹を推進することで地球温暖化防止に努めています。藤倉化成(天津)有限公司では、開発区環境保護協会が主催した植樹活動に参加しました。また、フジクラカセイコーティング・インドアでは、工場敷地内に可能な限り植樹を行っています。



藤倉化成塗料(天津)有限公司での活動の様子



フジクラカセイコーティング・インドアの敷地内の植樹

環境改善活動事例：持続可能な環境活動への取り組み

国内輸送に関わるCO₂排出量削減活動

当社は、2022年度より脱炭素社会への貢献として全社物流改革会議を開催し、国内輸送に関わるCO₂排出量を削減するための取り組みを開始しました。この背景には、自社のCO₂排出 (Scope1、Scope2) 以外に上流、下流 (Scope3) を含むサプライチェーンでのCO₂排出量削減に向けた取り組みが急速に求められるようになったことがあります。

事業部ごとにVSM (バリューチェーンマップ) を作成し、現状の物流状況を把握、横持ち輸送や輸送回数削減などの検討を行いました。

今後とも、自社のCO₂排出だけでなく、サプライチェーンでのCO₂排出量削減を意識した活動を継続していきます。